

7 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法	指導・援助
1	森さんの道案内で、目的地（花園児童館）につけなかった原因が分かり、目的地に着くには、歩く順番や目印になるもの、曲がる方向を説明するとよいことに気づくことができる。	教材にある説明で足りないところに気づき、分かりやすい案内を考える。 伝えるためのポイントを話し合う。	道に迷ったわけを理解し、分かりやすい説明を考えたり、大事な点を考えたりしている。  ・観察 ・発言内容 ・ノートの記述	道案内で大切なことに気づけない児童には、森さんの道案内を地図に印を付け、たどりながらもう一度聞き、原因を考えさせる。
2	相手に分かりやすく道案内をするためには、  「目印になるものや曲がる時の方向などと言う」 ことが大切であることが分かり、分かりやすく道案内をするための要点をまとめることができる。	準備した文章を基に話す。 道案内をする際のポイントを考える。 一斉指導  教材の地図を使って、道案内のメモを作る。 個別・班指導  学習の振り返り	「道案内で大切なこと」を考えながら、相手に分かるように話す要点を書き出すことができる。  順序良く大切なことを落とさず案内を考えている。  ・観察 ・発言内容 ・ノートの記述	地図を使い歩く順序や目印になるものを確認して、わかりにくそうなところは、詳しく話せるようにさせる。
3	相手にわかりやすく道案内をするためには、 「目印になるものや曲がる時の方向などと言う」 ことが大切であることが分かり、書き出した道案内の要点を基に道案内をすることができる。	準備した文章を基に話す。 道案内をする際のポイントをまとめる  道案内を班で練習する  相手を決めて話をする ・道案内の説明内容の検討をする。  学習の振り返り	評価内容 くわしくしてまよわなかった わからないところがあつてまよつた 「どこの話からかんだか」話し手は、聞き手に聞き取り調査をする。 分かりやすく話すための要点を理解して話している。	道案内で大切にすることを考えながら、具体的に建物を示したりして、道案内をすることができるよう視点を与える。
4	教科書の地図を使って道案内するには、「どこで会ったのか」「どんな人に案内するのか」「どこまでの道案内をするのか」をはっきりさせるとよいことがわかり相手に応じた話し方で、道案内の練習をしたり、発表したりすることができる。	その場で言葉を選び分かりやすいように話す。 道案内を班で練習する ・場所を選びその場で話を考える。 相手を決めて話をする おもちゃ屋さん周辺であつたお年寄りに中央図書館を教える。 公衆電話周辺で会った大人に酒屋さんを教える。 学習の振り返り	自分で決めたところを「道案内で大切なこと」や「相手に応じた話し方」を考えて説明している  ・観察 ・発言内容 ・ノートの記述	自分の決めたところを、地図を使って位置を確認させ、わかりにくい場所を確認した上で、案内のポイントを明記させる

8 本時の展開

	主な学習活動	指導・援助	留意点
導入・課題化	<p>前時の振り返り</p> <p>相手にわかりやすく道案内をするためには、どんなことに気をつけて話せばよかったのかを振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目印になる建物などで場所を示す。</li> <li>早口にならないように相手に聞き取れる速さで話す。</li> <li>教科書の「たいせつ」を思い出す。</li> </ul>	<p>前時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>くわしくとは、相手にとっての分かり易さが標準になることをおさえ、相手の視点にたった話し方を振り返らせる。</li> </ul>	<p>分かりやすく伝えるためのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>順序；道順。無駄なことはいわない。</li> <li>目印；建物の名前信号，ポストなど</li> </ul>
展開	<p>角や交差点などで、進む方向や目じるしになる物の様子を話し、分かりやすく道案内をすることができる。</p>		
	<p>道案内第1場面</p> <p>「道案内ゲームの練習をしよう」</p> <p>班の友達を相手に道案内をしよう。</p> <p>「道案内をする側」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地図に書き込んだ要点を基に道案内ができる。</li> <li>地図だけを見て道案内ができる。</li> </ul> <p>「聞く側」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地図を基にたどり着けるか、迷うところが無かったか、分かりやすい表現だったかを聞く。</li> </ul> <p>道案内第2場面</p> <p>「道案内ゲームをしよう」</p> <p>他の班の相手にコースを説明し、道案内をしよう</p> <p>「道案内をする側」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他の班の友達に向かって、自分のコースの道案内をする。（書き込みを見ない）</li> </ul> <p>「聞く側」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地図を元にたどり着けるか、迷うところが無かったか、分かりやすい表現だったかを話し合う。</li> </ul> <p>「評価」</p> <p>くわしくて迷わなかった。 分からないところがあってまよった。 内容は、話し手が聞き取り調査をする振り返り</p> <p>何人に詳しく伝わったかを確かめ合う。</p> <p>どんな言い方が分かりやすかったかを話し合う。</p>	<p>場面設定理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前後半で構成される</li> <li>前半は、後半のゲームの練習である。</li> <li>後半は、相手に詳しく伝えることができたことを競争するゲームである。</li> <li>評価として、聞き手は、道案内の聞きやすさを評価する。</li> </ul> <p>ゲームの練習をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>詳しく説明する必要があるポイントを押さえてあるか考えさせる。</li> <li>特徴的な建物に注目させ、話しの順序が正しいかをつかませる。</li> </ul> <p>道案内ゲームをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道順どおりに話しているか、道案内に大事な言葉が入っているかを話し合いの観点として位置づける。</li> <li>聞く側は、聞いたことを地図上で押さえ、分かりやすさを聞き比べる。</li> </ul> <p>振り返り</p> <p>次時は、書き込みをしない道案内であることにつなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>方向；右・左・まっすぐ・～にそってなど。</li> <li>数字；一つ目の角・二つ目の道など</li> <li>相手意識 相手を見て話す。 分かったか訊く。</li> </ul> <p>学習チェック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道順にそって話した。</li> <li>方向を示す語句を使った。</li> <li>目印を示す語句を使った</li> <li>順序を示す数を使った。</li> <li>相手を見ながら話した。</li> <li>分かったかどうかを確認した。</li> </ul> <p>振り返り</p> <p>相手意識に立った表現を認め励ます。</p>
まとめ	<p>本時のまとめをする</p> <p>道案内をするためには、「目印になるものや曲がる時の方向などを言う」ことが大切であることが分かり、筋道を立てて話せば、伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができることがわかる。</p>		